

	<p style="text-align: center;">ヤノマミの村の大統領選挙は 電子投票だった SCE・Net 堀中新一</p>	<p style="text-align: center;">E-62</p> <p>発行日 2014.4.27</p>
---	--	---

ヤノマミ族を知ったのは、20年近く前のTV番組「グレートジャーニー 密林の裸族ヤノマミ」（関野吉晴 フジテレビ 1996年9月1日放映）であった。ヤノマミは私たちと同じ蒙古斑を持つアマゾンの先住民で未だ原始の生活を営んでいるという。

ベネズエラアマゾンのヤノマミ族を訪ねる私たち4人とツアーディレクターとのツアーは、ベネズエラ大統領チャベスの逝去を受け、大統領再選挙が2013年4月14日に実施されることとなり、ベネズエラ国内では投票日前後の数日間、航空機の国内線およびチャーター便の取り扱い等が大幅に制限されるとのことで、急遽出発を3日繰り上げて催行となった。

4月9日（火）、成田を発って、ヒューストン、ベネズエラの首都カラカスを経由し37時間、10日（水）15時15分（現地時間）、カラカス南方800kmのアマゾナス州都であるアヤチョークに到着した。空港から市街地に向かう道路の反対車線には、チャベス政権を継承する大統領代行マドゥーロ与党候補陣営の揃いの赤いTシャツの人達がトラックや乗用車で続々と集合し氣勢を上げている。市内の商店、飲食店はお休み。選挙一色である。

翌11日（木）、チャーターセスナで2時間の人口1千人の村サンカルロス・デ・リオネグロに移動。無人の小さな空港の建物の壁面と立て看板に候補者ポスターが張り出されている。保守政治家らしい風貌のマドゥーロ候補50歳に対し、ミランダ州知事カプリレス野党統一候補は40歳、若々しい容姿でいかにも新進気鋭という感じである。

更に、ネグロ川支流のハニシモ川まで船外機付きのボートで遡ること6時間、ヤノマミの居住地に到着する。もはや選挙の気配はみられない。

ヤノマミ族の住居は、円形のスタンド屋根付きのスタジアム様の共同住宅ーシャボノとして知られているが、ここのものは四角であり、ほぼ40m×50mの広さである。この一族は39人で構成されている。

滞在3日目の13日（土）の午後、集落の全員が投票に向かうことが判り、我々も同行する。ヤノマミの人々と一緒にボートで、約4時間、雨の中、夜遅く投票所のあるメレイ村に到着する。ボートの狭い空間で、ヤノマミの人たちとの間の親密度は一挙に深まった。2人の主婦に、この選挙でどちらの候補者を支持するかを、空港で撮影した候補者ポスターを見せて尋ねたところ、2人とも迷いなくマドゥーロ候補を指差した。

ヤノマミの人たちは崖を上がり村の人たちの家に三々五々入り、我々はテントの設営を断念し、ボートにハンモックを吊り就寝することになった。

投票日の 14 日（日）は、昨夜来の雨が上がり快晴となった。川辺に接岸しているボートから崖を登ると、昨夜見られなかった村の様子を把握することが出来た。メレイ村は、川に面し 12 の家屋が馬蹄形に立ち並んだ村で、私たちが訪れた一族とは兄弟関係にあるとのことである。



メレイ村（川を望む）

投票所となった学校

投票所は川に一番近い所にある学校である。平屋約 50 m²土間の建物で、出入り口が 1 ヶ所、その両側に明かりとりの窓が 2 か所がある。投票所近くの広場に通信用パラボラアンテナが設置されていた。投票所入口の左側には、選挙人リストー A 4 用紙で 2 枚に ID ナンバーが印字されている一が張り出され、この投票所の有権者は 99 人であることが判る。入口の右側には全紙大カラー印刷で投票方法を記述したもの、もう 1 枚には、候補者一覧表が張り出されている。（筆者はスペイン語の素養なし）

9 時過ぎに投票所がオープンした。ヤノマミの人たちは今日ばかりはこざっぱりした服装で、投票所前に ID カードを持って並んでいる。洋服を着て遊んでいる子どももいる。真新しいベビー服を着た赤ん坊もいる。少なくともボートの中の荷物にはないものである。この村の親戚に預けているのかも知れない。ベネズエラ国民は、6 歳から 10 歳の間で ID カードを取得することになっており、顔写真と指紋が登録されている。



シャポノでくつろぐ夫婦
（第二夫人と）



村で選挙に向かう夫婦
（こちらは第一夫人）

投票所前には小銃を持った兵士が立ち、投票所に向けた写真の撮影を禁止された。もちろん投票所内部もである。窓から覗くことは認められたので、内部の様子を知ることが出来た。投票は入口から右回りに進む。投票者は係員にIDカードを提示し、指紋認証と顔写真認証を行う。入口の奥に衝盾で隔てて投票機があり、ここで投票する。(見えないので伝聞)投票機は戸外に掲示されているポスターと同じ様式のパネルがあり、候補者写真を指先でタッチして選択すると、印字された投票済用紙が出てくるので、これを投票箱に投入する。係員により有権者台帳で確認され、小指に赤い染料で投票済の印を付けられ完了となる。これらはすべて中央の選挙センターと衛星回線を通してオンラインでやりとりされることである。この投票所で立ち会っている行政の監視人は、この選挙システムは世界でも先端を行っているとして自慢していた。午後通信回線の不調により約1時間強の中断があったが、予定通り午後6時に選挙受付終了となった。

午後6時半から投票所の前で開票作業が始まり、村民が一斉に集まる。開票結果は、マドゥーロ候補が41票、カプリレス候補が3票で、この投票所—ヤノマミの人たちではマドゥーロ候補が圧勝である。この結果は、投票所のプリンターからプリントアウトされたデータと照合し確定された。翌日には僅差でのマドゥーロ候補勝利の発表がなされたが、各地の投票所での投票用紙の行方不明や破棄などを挙げ、カプリレス候補派が選挙結果に異議を申し立てたとの情報を現地ガイドから聞かされた。

翌朝、選挙用機材はすでに学校から消えており、残されたパラボラアンテナは夕方ベネズエラ海軍のボートで搬出された。

私たちはこの村に2日間滞在し、17日(水)の朝、ヤノマミの人たちに別れを告げ、往路と同じ川を下り、サンカルロス・デ・リオネグロで船のホテルに入った。対岸はコロンビアであるが、ベネズエラの選挙のためかコロンビア側からの国境閉鎖により渡れなかった。

18日(木)、雨の中セスナでアヤチョークに飛び、翌日のカラカスへの航空便があるプエルトータスへ陸路4WDで東へ750kmを移動する。プエルトータスのホテルのTVにはカラカス市内での盛大な大統領就任を祝う会の実況中継が流れていた。明日の「独立宣言の日」を平穏に行うため、反対派からの異議申し立ては、選挙結果の再点検を1ヶ月後を目途に行う事を条件に一時休止したとのことである。この時、CNNは、4月15日に発生したボストン爆破事件とその容疑者探索の様子を途切れなく流していた。

19日(金)、空路カラカスに入る。カラカス市内では盛大な「独立宣言の日」の式典とパレードが行われていたが、私たちは治安上の問題から立入ることせず、その実況風景を空港近くのホテルのTVで見ただけであった。

翌20日(土)、カラカスから出国、ヒューストン、サンフランシスコを経由し成田に帰国した。

日本の新聞でもこの大統領選挙については比較的丁寧に報道されていた。

昨年暮れのTV番組（2013年12月30日（月）18：00～20：54 テレビ東京「所さんの世界ビックリ村～こんなところになぜ？～ベネズエラ精霊を囲う村 秘境アマゾンの民・ヤノマミ」）の映像の中で、あのヤノマミの人たちと再会することになった。私たちが体験したアヤチョークからの旅程とヤノマミのシャポノでの日常が約40分間の映像にまとめられ放映された。

あれから1年、4月17日の新聞には、「ベネズエラ、弾圧激化 反政府デモ 死者40名超 物資不足、治安も悪化」（朝日新聞）、「Venezuela Raises Iron Hand Against Protesters」（The Wall Street Journal）とベネズエラがいまだ対立、混乱状態にあることを報じている。ちなみにCNN、BBCは韓国フェリー遭難事故とウクライナ情勢を終日流していた。◆